

D 4 動線分析からみた土間の役割 — 宗像市赤間町町家における住まい方  
福岡教育大 秋山 晴子

目的 独特の町並景観を残す、宗像市赤間町の町家を取りあげ、増・改築の視点をもた  
ながら住まい方を分析する。本報では各室の使い方・動線分析からみた土間の位置づけ、  
役割について報告する。

方法 宗像市赤間町における旧赤間宿町家のうち伝統的平面を保持する33戸を取りあげ  
平面踏査・住まい方調査・アンケート調査を実施した。調査時期は 昭和53年8月および  
昭和54年7~8月、昭和55年7~8月

### 結果

- 1 | 1階母屋だけで生活している世帯は少なく、はなれ、2階をもっているものが多い。  
はなれは DKやKとして、2階は 子供室・寝室など私室として使われている。
- 2 土間を改造して部屋にする場合でも半数以上は土間の一部を残しており、町家におけ  
る土間の意義が大きいことがわかる。
- 3 通り土間はほとんどの家にあり、その使い方は裏への通路・物置・廊下がわりになっ  
ている。
- 4 動線とみると、各室のプライバシーを守るために、土間を廊下がわりに使っているこ  
とがわかる。